

一般質問

P15右下の二次元コードから高山市議会 YouTubelにて各議員の一般質問をご覧いただけます。(タブレット・スマートフォンに対応。通信料は別途発生します。)

こども食堂のニーズについて

創政クラブ  
片野 晶子



**問** 必要としているお子さんや家庭へ情報を届けるためのアナウンスはどのような形で行われているか。

**答** 市のホームページで実施団体の名称や活動場所、開設日などの一覧表を掲載したり、「こども家庭支援ガイドくるん」では一覧表の他に実施団体の活動場所を記した地図も掲載し周知を図っている。またこども家庭センターでは、こどもの育ちや発達、子育ての困難さや不登校、生活困窮など様々な相談を受けている。相談や継続支援の中で把握した食事の提供に関するニーズは、こども食堂実施団体等に情報提供し、可能な限りの支援につなげている。



小規模事業者への経済支援は

創政クラブ  
岩垣 和彦



**問** コロナ禍を過ぎ景気は回復基調とされるが、物価高や資源高により市民生活は好景気に浮かれる状況ではなく、市内には外国人観光客が溢れる一方、市民の暮らしは二極化が生じている。特に大型店やチェーン店と競合する事業は苦しい状況が続いている。市内経済の牽引と市民生活の一助とするため経済対策を講じる考えは。

**答** 市ではデジタル技術による生産性の向上や新商品開発のための補助金など側面支援を行なっている。市としての経済対策について、例えば従前に実施した商品券事業による消費拡大を図る局面でなく、生活防衛のために、市として何ができるのか、検討していく。

土砂・水害反復地域の抜本解決とダム新設

創政クラブ  
倉田 博之



**問** 「流域治水」の基、県土強靱化策の強化が表明された。土砂・洪水氾濫が再々反復する地域を救済する好機とすべきだ。

**答** 根本的対策が必要だが災害復旧事業は原形復旧が基本とされている。減災・未然防止対策を県に強く求めると同時に、市も河川改修・浚渫などに取り組む。

**問** 6月豪雨で宮川防災ダムは余力があったのに、市中の観光・商業集積地近辺は氾濫寸前だった。ダム下流集水域の流入量調整策が不可欠で、第二ダム建設が必要ではないか。

**答** 県強靱化計画にもダム建設等の加速が明記されている。降水量などの設計基準の見直しとともに、第二ダム設置や、現在のダムの増強などを国・県に求めていく。



繰り返される土砂・水害 (塩屋町)

高山市こども未来計画に基づく今後の取組みについて

無会派  
小井戸 真人



**問** 国は令和5年4月にこども家庭庁を、市では令和6年4月にこども未来部を設置し、こどもに関する政策が一元的に推進されることとなった。それぞれの組織の設置によってどのような効果が得られているのか。

**答** こども家庭庁の設置は財源も含めて地方自治体がこども政策を総合的に展開していく上で、強力な後押しとなっている。市では、こども未来部を創設し、児童福祉と母子保健を一体化したこども家庭センターも設置した。妊娠前から切れ目のない支援が迅速かつ適切に行われる体制ができてきており、教育委員会との連携も図られている。今後も総合的に推進する組織として機能するよう、取り組みをすすめていく。

